

# タグラグビーセット寄贈

## 県ラグビー協会 寄居の4小学校に

3年後にラグビーワールドカップ(W杯)を控え、県内の小学生にラグビーを親しんでもらおうと、県ラグビーフットボール協会は16日、寄居町役場で町立小学校4校にタグラグビーセットを寄贈した。同協会の尾崎良巳副会長は「タグラグビーの活動を通じて、W杯への関心を高めていきたい」と話した。

協会は本年度から、児童を対象にしたタグラグビーの授業指導ができる資格を認定する「ティーチャー養成講習会」を本格的に実施。寄居町の教職員が養成講習会に参加し、各校でタグラグビー教室を行



尾崎良巳県ラグビー協会副会長(右)から花輪利一郎町長にタグラグビーセットの目録が贈られた。16日午後、寄居町役場。

居をはじめ、春日部、狭山、上尾、さいたまの4市1町への訪問を予定し、講習会の参加校など126校にタグラグビーセットを配布する。寄付金も引き続き受け付けているという。(丹羽良平)

ったことなどから、同町がタグラグビーセットの寄贈第一号に選ばれた。

花輪利一郎町長は「セットを頂いたことをきっかけに、W杯の機運醸成、起爆剤にしていければ、体育の年間指導計画に取り入れ、子どもたちの体力向上、健全育成に役立てたい」と話した。

タグラグビーはルールを単純化した初心者や年少者向けの競技。タックルの代わりに、腰の部分に着けたタグ(飾りひも)を取ることで相手の前進を止めることができる。小学校の体育の授業や休み時間などに活用されることを想定し、競技の普及を目指す。

協会は県内800以上の小学校にタグラグビーセットを贈ることを目標に、8月から寄付金の募集を開始。現在、約300万円が寄せられているという。目標総額は約2千万円。

1校当たりの1セットとし、1セットにつき、ボール5個、タグ40本とマトカー20個など。協会は今月中に、寄